別添4 (第3-2 (2) 関係)

生産体制・技術確立支援(新品種・新技術の確立支援)に関する事業評価票

| | | | | 成果目標の達成状況 | | | |
|-------------|---|-------------|--|---------------------------------------|--|---|--|
| 事業実施 主体名 | 新品種・新技術 等 の内容 | 事業実施 初年度 | 成果目標の 具体的な内容 | 基準年 (計画策定時) | 目標年 | 具体的な取組内容 | 地方農政局長等の意見 |
| | | | | 令和2年 | 令和4年 | | |
| 新潟県 | 冬季の積雪・寡日照条 件下におけるいちご環 境制御技術 | 令和2年度 | 産地・実需者のニーズを 反映したいちご生産が可 能な環境制御方法を確立 し、産地に導入する。 | - | 過去3か年同期平均生産 量比 101~115% (令和4年5月末実績) | ・いちご栽培におけるハウスの施設内環境 モニタリングの現地実証を実施し、関係機 関と最適な環境制御方法を検討。 ・新技術実証及び熟練技術者の栽培手法モニタリングの成果に基づいた栽培の手引き の作成し、生産者へ周知。 | 実証等の成果に基づき作成した 栽培の手引き「「越後姫」高設 栽培 モニタリングと環境制御管 理」を生産者へ周和し、導入が 図られたことで生産量が増加し たため、成果目標は達成したも のと評価できる。 |
| 新潟県 | 耕うん同時畝たて作業 機によるえだまめ早生 茶豆「新潟系14号」の 直は栽培技術 | 令和2年度 | 産地・実需者のニーズを 反映した栽培技術(耕う ん同時畝たて作業機によ るえだまめ早生茶豆「 潟系14号」直は)を確立 し、産地に導入を図る。 | 新潟系14号栽培面積 25.9ha (令和元年産実績) | 新潟系14号栽培面積 81.5ha | ・耕うん同時畝たて作業機によるえだまめ 早生茶豆「新潟系14号」の直はの実証を行い、技術内容に係る検討会を実施。 ・実需者の意向把握のため意見交換等を実施。 ・実証結果をもとに栽培の手引きを作成し、生産者へ周知。 | 実証等の成果に基づき作成した 栽培の手引き「新潟系14号のマルチ直は等栽培方法」を生産者 へ周知し、産地で手引きに基づ いた栽培が実施されたことで、 新潟系14号の栽培面積が増加し たため、成果目標は達成したも のと評価できる。 |
| 富山県 | 日本なしの新品種及び ジョイント仕立て樹形 の導入による産地の活 性化 | 令和2年度 | 産地・実需者ニーズに即 した日本なしの品種選定 とジョイント仕立て樹に おける栽培管理技術を確 立し、新品種・新技術を 導入する。 | 積 — | 新品種「香麗」の栽培面 積 70a ジョイント樹「幸水」の 出荷量 13.3t | ・有望な新品種6品種及びジョイント仕立 て樹の側枝管理の実証を行い、成績検討会 等を実施。 ・市場での試食検討会、先進地調査の実 施。 ・新品種・新技術の栽培の手引きを作成 し、栽培講習会において品種特性の提示や 側枝育成技術習得支援を行った。 | 実証等の成果に基づき作成した 栽培の手引き「日本なし新品 種・新技術(ジョイント仕立 て)の導入・栽培マニアル」 を用いて新品種・新技術を生産 者に周知し、新品種「香麗」の 導入や新技術「ジョイント仕立 て」の取組が増加したため、成 果目標は達成したものと評価で きる。 |
| 富山県 | 環境モニタリングに基 づくトマト・いちごの 栽培管理・環境制御技 術の確立 | 令和2年度 | トマト及びいちご栽培に おける環境モニタリング に基づく栽培管理・環境 制御技術を確立し、県内 での普及を図る。 | I | 新たに環境モニタリング 装置を試験導入する経営 体 2経営体 | ・トマトの半促成栽培及びいちごの促成栽培における環境モニタリングに基づく栽培管理・環境制御技術の実証を行い、その結果を検討会で検討。 ・実証結果をもとに栽培の手引きを作成し、施設園芸農家への指導や勉強会で活用。 | 実証等の成果に基づき作成した 栽培の手引き「施設園芸における環境制御技術とその活用事 例」を用い生産者へ指導し、環 境モニタリング装置を試験導入 する経営体が増加しているた め、成果目標は達成したものと 評価できる。 |
| 富山県 | 加工業務用野菜 (ほう れんそう及びトマト) の安定生産技術の確立 | 令和2年度 | 加工用トマト・加工業務 用ほうれんそうの適品種 の検討と安定生産技術を 確立し、産地への普及を 図る。 | 加工用トマト栽培面積 一 加工業務用ほうれんそう 出荷量 | 加工用トマト栽培面積 49a(前年比196%) 加工業務用ほうれんそう 出荷量 月100~150kg | ・加工用トマト・加工業務用ほうれんそう の適品種、低コスト省力化のための機械化 体系、生育促進技術(トマトのみ)実証を 行い、当該技術について検討を行った。 ・実需者との意見交換、アンケート調査、 先進地調査等を実施。 ・実証結果をもとに栽培の手引きを作成。 | 実証等の成果に基づき作成した 栽培の手引き「加工用トマト栽 培マニュアル」及び「にんじん うね立ては種機を活用した加工 業務用ほうれんそうの愛地栽培 マニュアル」を現地指導に活用 し、加工用トマトの栽培面積が 増加し、加工業務用ほうれんそ うの販路が確立・出荷が定着 したため、成果目標は達成したも のと評価できる。 |